

(新)身近な温暖化問題発見事業(エネ特会)

300百万円(0百万円)

地球環境局地球温暖化対策課
自然環境局生物多様性センター

1. 事業の概要

身近な自然事象等の観察を通じて、温暖化による自然の変化や暮らしへの影響について「気づいて」もらい、温暖化問題を「自分ごと化」するため、温暖化による影響を受けている可能性がある自然現象や身の回りの事象等を紹介した、映像・パネル等の地域オリジナル「気づき・自分ごと化ツール」を製作し、各地域のイベント等で活用する。また、各地のツールをまとめた「集約コンテンツ」を製作し、全国に展開・情報発信することにより、温暖化が日本全土に影響を与える問題であることを可視化する。

2. 事業計画

(1) 温暖化による自然事象等への影響発見事業

地球温暖化による影響を受けている可能性がある自然事象等を、国民自らが見つける事業を全国規模で行う。

(2) 地域における温暖化影響事例の情報収集等事業

それぞれの地域で地元の方にヒアリング等を行い、地球温暖化が原因の可能性がある身の回りの気象・自然など生活に関する影響について、情報収集等を行なう。

(3) 地域オリジナル「気づき・自分ごと化」ツール等製作・展開事業

(1)(2)で収集・分析等したデータを組み合わせ、パネルや映像等の地域オリジナル「気づき・自分ごと化」ツールを製作し、各地域のイベント等で展開するほか、それらのツールをまとめた「集約コンテンツ」を製作し、関連施設や協力企業・団体と連携を図り、全国発信する。

3. 施策の効果

一人ひとりが地球温暖化問題に「気づき」、「他人ごと」でなく、「自分が暮らしている街のできごと(=自分ごと)」として捉えることで、日常生活でのCO2排出削減の具体的な行動を促進させる。

4. 備考

委託費 300百万円

(新) 身近な温暖化問題発見事業の考え方

【基本戦略・手法】 温暖化による自然現象等への影響発見 地域における温暖化影響事例の情報収集等 ツール製作・展開

